

HUMANE INTERNATIONAL NETWORK (HINT)

HINT News Letter No. 45 目次

- Page1: HINT 総会のお知らせ
Page2~3: HINT 講演会採録 世界に広がる感染症の現状(4)
Page4~5: アフリカの生活 「雑草」を食べる—タンザニア
のおいしい食事
Page6: 映画の窓
Page7: 会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿、
HINT 事務局からのお知らせ
Page8: HINT 事務局からのお知らせ

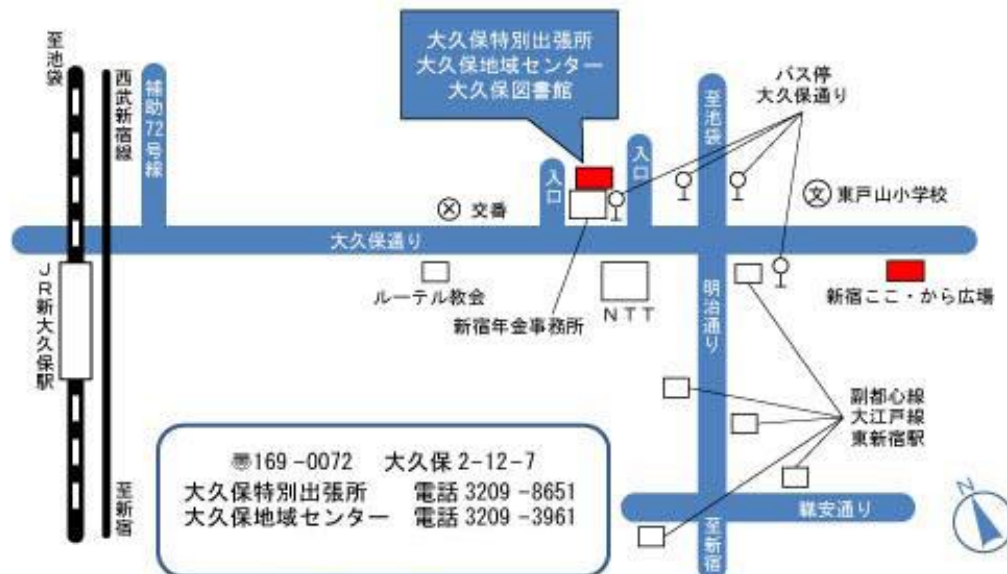
HINT総会のお知らせ

日時：2017年6月24日(土) 18:30~19:30

場所：新宿区立大久保地域センター3階 会議室C

東京都新宿区大久保2-12-7 TEL:3209-3961 JR山手線「新大久保駅」下車 徒歩8分
2017年度総会及び理事会を開催いたします。どなたでもご参加（ご見学のみ・オブザーバー
としてのご意見も！）いただけます。終了後、懇親会がございますので是非ご参加ください。

案内図



- ・ JR山手線 新大久保駅から 徒歩8分
- ・ 東京メトロ副都心線 東新宿駅エレベーター口から 徒歩3分
- ・ 都営地下鉄大江戸線 東新宿駅から 徒歩8分

HINT ((特活) ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク) は、1994年に発生したアフリカのルワンダ虐殺時の難民支援のために創設された東京都認証 NPO (非営利活動) 法人です。現在はイエス・キリストの教えにしたがい、開発途上国における教育や保健医療、農村開発などを通じて、国境を超えた支援活動を続けています。息の長い継続が必要な奨学金事業では 20 年以上の実績があり、皆さまからの温かいご支援によって貧困状態が続く地域で多くの人材と希望を育てています。

HINT 講演会採録

エボラウイルスやジカ熱、デング熱の猛威は記憶に新しいところですが、現在も国際社会が協力しながら感染症対策が進められています。グローバル化が進む中で、感染を収束させるための方策を、日本を代表する専門家である狩野繁之氏からお話をうかがいました。今回は講演の採録の連載4回目（最終回）です（2015年6月20日（土）、於・新宿区落合第一地域センター）。

世界に広がる感染症の現状(4)

狩野繁之

ヒトスジシマカは日本にはたくさんいて、成虫越冬できません。いま飛んでいる蚊は冬が越せません。

去年（2014年）代々木公園で128名、新宿中央公園で11名、東京を中心に162名の国内感染事例がおきました。外国の人が一杯集まるようなフェスティバルがありました。そこに日本人も一杯集まり、そしてウイルスをもった人がおそらく来たんでしょ。実はそのウイルスの遺伝子も調べてあって、その感染のソースは恐らく一人か二人です。その感染者を蚊が刺して、その蚊が何人も刺して拡散していったと考えられています。



吸血するヒトスジシマカ

このことが今年起きるかどうかわかれますが、専門家の正しい見解は、わからないというのが本当です。そうならないように今から殺虫剤を撒いて蚊が増えないようにしています。去年の場合は、この感染のソースが小さかったの、今年そういう人が来なければ流行しないだろうと言えるわけですが、世界で

は25億人がデング熱の感染の危険に晒されているため、また来るかもしれません。それどころか、過去にわからなかっただけで、前にもあったかもしれません。1999年に感染症法が施行されましたが、感染症が流行したときに人の行動を制限したり、閉じ込めたりしては人権侵害でいけないと、我々は言いました。ところが、代々木公園でデング熱が流行ったときには公園を封鎖して、我々市民ランナーは中に入れないうです。しかし、文句を言う人がいません。なぜ、公園を封鎖するのでしょうか。公園を封鎖するぐらいだったら、フィリピンやシンガポールに人を行かせるな、公園の100倍危ないということになると言っているのですが（笑）。

WHOの「顧みられない熱帯病」は、無視された人々の熱帯病とも言えます。脆弱な貧困層の熱帯病として、多くの貧しい遠隔地、都市スラム、紛争地帯に集中しているため、脆弱な貧困層の象徴のような病気であり、お金があれば治せるのに、すぐに命をとらず、お金がないから治療しない。そのような病気です。WHOはデング熱、狂犬病、トラコーマ、ハンセン氏、シャーガス病、リンパ性フィラリア症、住血吸虫症など17の疾患を「顧みられない疾患」としていますが、すぐには死なないけれども、ネグレクトド（無視された）な病気が世界にはたくさんあります。

この顧みられない熱帯病の中に、フィラリア症があります。実はこの病気はかつて日本で大変流行していて、安藤広重が、リンパ管にフィラリアの虫が詰まって、局部が膨れ上がった日本の患者の姿を描いています。これが足に来ると足が膨れ上がる象皮病となるのです。日本には戦後までこのような患者がたくさんいました。アジアでも、このようになるまでほっておく患者が大勢いて、死なないので、スカートで隠してこっそりとしていたりするわけです。

現代では、日本のエーザイという製薬会社がジエチルカルバマジンという特効薬を作ることになりました。この薬をWHOに無償で提供して世界中のフィラリア症をこの薬で治しましょうという運動を日本が中心になってやっています。まだアフリカにたくさん残っていますが、おそらく2020年までにはなくなると考えています。さらに、このように顧みられない感染症の中に、メコン川流域に流行し

ているメコン住血吸虫症というものがあり、魚を生で食べることによって感染する病気がラオスで流行しています。

実はラオスのビエンチャンというところにあるパスツール研究所に、私の研究室があります。ODAにより年間1億円の使用料を払っているわけですが、SATREPS（国立研究開発法人科学技術振興機構・国立研究開発法人日本医療研究開発機構・独立行政法人国際協力機構が共同で実施している、開発途上国の研究者が共同で研究を行う3～5年間の研究プログラム）により、5年後には地元の若い研究者を育成して、彼らが運用できるようにしなさいということで、東京の自分の研究室と同じような作りの実験室ができています。

その研究所は、周りの風景の中に着陸した宇宙船のようでもあり、24時間クーラーが入っていて、中にいるとどこにいるかわからなくなります。我々の仲間が現地に在住して、メコン住血吸虫症、タイ肝吸虫症の二つの感染症を対策しようと頑張っています。



SATREPSのラオス人研究者

ラオスという国はベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマーと中国に囲まれていて、海がありません。日本でも、たとえば自分の出身地の群馬県のまわりにも海がなく、県の中央に利根川が流れており、川でアユやイワナ、ヤマメなどを生で食べると寄生虫に感染するわけです。ラオスにはメコン川が流れており、その魚の筋肉に寄生虫がいて、サラダでマリネなどにして食べると非常に美味しいのです。つい、わかっていても食べてしまいます。我々がサバの押し寿司でアニサキス、またホタルイカで旋尾線虫が感染する危険があっても、食べてしまうのと同じです。するとタイ

肝吸虫は体内に入って胆管の中で成虫になり、放っておくと胆管ガンになります。そして成虫から卵が出ると排便と共に外界にでて、卵からでてきた虫が貝の中に入ります。貝の中で成熟して泳ぎ出して、今度は魚にエラや鱗の隙間から寄生します。その魚を人間が生で食べて感染します。対策としては、魚を食べないか、メコン川にウンチを流さないかということになります。お尻から出た虫卵が、巡って次の人の体に入らないようにすることが大事です。しかし、メコン川の上流でウンチをしても、下流では食器を洗ってる状況です。水が三尺流れると清くなります。そういう文化ですから、これをどうしたらいいか。わかっているけれどやめられない。薬はありますので、毎年飲んでもらっていますけれども、毎年飲んでほろろするということになります。

この間、中学校に行って糞便検査をしました。今の日本人は糞便検査をしても小数点以下のパーセントしかありませんけれども、現地では192人のうち60パーセントに何らかの寄生虫卵がいました。そのうち半分が魚を食べた感染する寄生虫症でした。これが今の状況です。メコン住血吸虫症は貝から出てきた虫が、虎が獲物を襲うように皮膚を貫いて感染すると書物に書かれています。いくら絶対、川で泳いでダメですよと言っても、とても暑いので泳ぐのは当たり前現実があります。メコン川が複雑に入り組んでいて河は大切な生活の場です。今後は、喫食の行動変容、清潔なトイレでの排便行動、メコン川での水浴を控えるよう、対策指導を行い、5年間でどうなるかをみていきます。私はこの住血吸虫症をなくしてやろうと思っていますところです。できたら褒めてください（笑）。（了）

【プロフィール】狩野繁之(かのう しげゆき)

群馬大学医学部卒、同大学院博士課程（寄生虫学専攻）修了。同大学寄生虫学教室助教授を経て、1998年より現職（国立国際医療研究センター 研究所 熱帯医学・マラリア研究部 部長）。筑波大学基礎医学系教授、ラオス国立パスツール研究所寄生虫研究室長、長崎大学大学院TMGH研究科客員教授、フィリピン大学公衆衛生学校客員教授、日本熱帯医学会理事長、日本カトリック医師会評議員、カトリック社会問題研究所幹事、認定NPO法人マラリア・ノーモア・ジャパン理事などを併任。趣味：書道、空手、マラソン。

アフリカの生活

日本大学国際関係学部で教鞭を執りながら、NPO法人アフリック・アフリカの監事でもある八塚氏は、日本とアフリカでの活動を通して、全ての人々がそれぞれの「豊かな」生き方を実現できる社会を目指しています。

アフリカについての出前講座をしたり、写真展を開いたり、滞在したアフリカの国々についてのエッセイを執筆するなど、現地の情報を発信する精力的な活動を行っています。そんな彼女が、現地から学ぶ姿勢を大切に、日本の人々がアフリカを身近に感じられる活動を進めていきたいと願う、そのきっかけは何だったのでしょうか。偶然ともいえる出会いの中で、はじめてタンザニアを訪れることになった体験から、アフリカの魅力を語っていただきました。

「雑草」を食べる

——タンザニアのおいしい生活

八塚春名

はじめてのタンザニア滞在。村で4日目の昼ごはん。毎日、「お客さん(=わたし)」のために肉ばかりが出てきていた食卓に、はじめて緑色のものが並んだ。肉に飽きていたわたしが喜ぶ一方で、まわりの人たちは、「ほんとうに食べられるかしら」と、わたしを心配そうに見つめる。

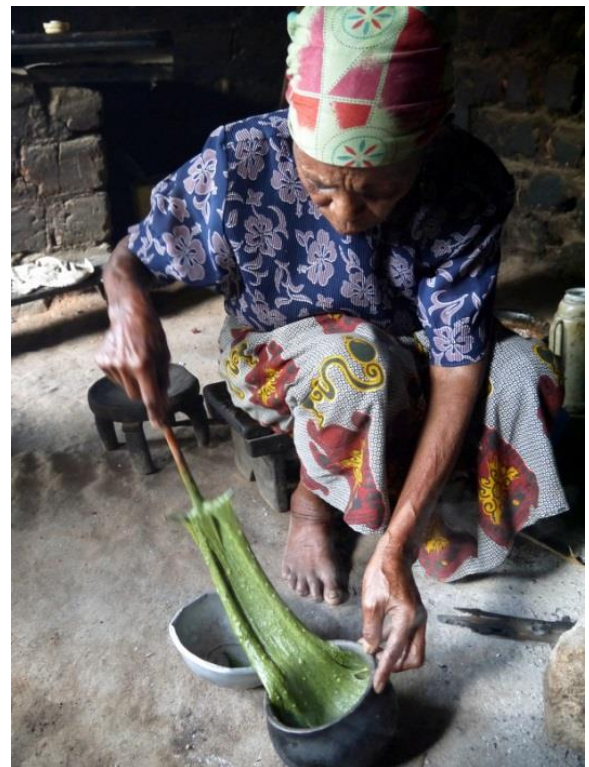


サンダウエの人々と筆者（中央）

いざ食べ始めると、それは強烈な粘りを伴い、食べるのに手こずったが、とてもおいしかった。その日以来、タンザニアの公用語で

あるスワヒリ語で「ムレンダ」と呼ばれる緑色のねばねば料理が、わたしのタンザニア生活にとって欠かせないものになった。

タンザニアではいろいろな種類のムレンダが食べられている。もっともポピュラーなものは、刻んだオクラとカボチャの葉を混ぜたものだ。都市部のマーケットで「ムレンダ」というと、必ず最初にこのふたつが売られる野菜売り場へ連れて行かれる。たしかにそれも十分においしい。



粘りが強いムレンダ。これに主食である穀物の粉の練粥をつけて食べる

しかしムレンダの魅力はなんといってもその多様性で、乾季と雨季が明瞭にわかれるタンザニアにおいて、年中手に入るわけではないオクラやカボチャの葉に代わるさまざまな植物の葉がムレンダとして調理されている。

わたしが長年お世話になっているサンダウエという人々は、彼らがベテベタと呼ぶゴマ科の草本を一番よく使う。ベテベタは人が耕す畑に勝手に生えてくる「雑草」だ。作物の成長を阻害するからと除草されることもある一方で、畑の一部で作物よりもベテベタの成長が優先されることもある。かれらはベテベタを播種こそしないが、ときに除草からよけて残したり、ベテベタの葉だけをちぎり、株を畑のなかに維持したりするなど、大事なお

かずになるベテベタの存在を畑のなかに「許容」しているのだ。



ベテベタが残された畑。枠内に茂る植物がベテベタ

サンダウエの生活において、とくに、乾燥させたベテベタの葉は欠かせない。一年の半分を占める長い乾季に、フレッシュな野菜や野生植物は手に入らない。そんな食べ物の乏しい時期に、乾燥保存しておいたベテベタの葉がおおいに活躍する。村人たちは毎日、飽きるほどにムレンダを食べる。一般的にムレンダは、平日に庶民が食べるおかずといった位置付けで、サンダウエ社会でも、ムレンダが祝いの席に並ぶことは決してない。でも、突然にやってくる葬式では、おおぜいの参列者へムレンダがふるまわれる。また、乾燥させたベテベタの葉は、教会への貢物にもなるし、村外に暮らす娘へのお土産にもなる。一方で、お金を払って他者からベテベタの葉を買うこともある。やはり、ムレンダなしに、彼らの生活は語れない。



ベテベタの葉を選別する女性。葉だけをちぎって、天日に干す

もしかしたらこの話は、アフリカの人たちの貧しい食料事情や、雑草を除去しない怠惰な農業の実態に聞こえてしまうかもしれない。しかし、日本の家族へのお土産にと、わたしにベテベタの乾燥葉を手渡してくれる村の女性たちをみていると、その理解は間違っているのだと確信する。かれらは、おいしいムレンダを食べたいからこそ、わざとベテベタを畑に維持し、そのおいしさを日本に帰るわたしに持たせてあげたいとってくれているのだ。一生懸命に栽培しなくても、植物を信頼して翌年の雨季を待てば、ベテベタはまた必ず生えてきてくれる。「管理」することこそが望ましい近代農業とは正反対だが、それこそが、かれらにとっての「効率の良い」食料確保の在り方なのかもしれない。

注) 本稿は、以下を大幅に改定したものである。八塚春名2015「タンザニア庶民の味—ご当地ムレンダ」栗田和明・根本利通(編)『タンザニアを知るための60章(第2版)』pp. 237-239、明石書店。

【プロフィール】八塚春名(やつつか はるな) 日本大学国際関係学部助教。博士(地域研究)。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科修了後、日本学術振興会特別研究員などを経て2014年より現職。タンザニアにおける自然資源利用とその変容に関する研究、狩猟採集社会の民族文化観光に関する研究、日本の山村におけるトキノミ利用の研究などをおこなう。主著に『タンザニアのサンダウエ社会における環境利用に関する研究—狩猟採集社会の変容への一考察』(2012年 松香堂書店)がある。NPO法人アフリック・アフリカ監事。



『タンザニアのサンダウエ社会における環境利用に関する研究—狩猟採集社会の変容への一考察』

映画の窓

高倍宣義

3月下旬にロンドン、4月に入りストックホルムで、車による歩行者への突入、エジプトでは枝の主日を祝うコプト教会で爆破テロ、パリのシャンゼリゼで警察官銃撃と、ヨーロッパやアフリカでテロが続いており、リスク社会になった。17年度のアカデミー賞で「ムーンライト」が作品部門で受賞したことは、ハリウッドが、政権交代したアメリカ社会に送ったメッセージと見る。最終ノミネートにもアフリカ系の人々を家族・社会・公民権、女性の知的貢献といった視点から捉えた良い作品が残った。既に公開中のものがあるが作品を見て、映画人や製作国のアフリカやアフリカ系の人々に対する視点の変化を感じたい。

* 「ムーンライト」 Moonlight

バリー・ジェンキンス監督
2016/アメリカ/111分 公開中

マイアミのアフリカ系の人々が住む地区に暮らすおとなしいアフリカ系少年シャロンが母親、保護者、親友ケヴィンとどんな人間関係を持ったかを、少年期、10代、成人の3期に分けて描いたドラマ。現代のアフリカ系の人々をよく映しているとされる作品。



© 2016 A24 Distribution, LLC (ムーンライト)

* 「ラヴィング/愛という名前のふたり」 LOVING

ジェフ・ノコルズ監督・脚本
2016/イギリス・アメリカ/123分 公開中

かつて異人種間の結婚を認めなかったアメリカ・バージニア州で、白人男性が幼馴染の黒人女性と1958年にワシントンDCで結婚するが、ラビング夫妻は州法で罰せられる。二人は人々の理解と支援を得て、1967年に連邦最高裁から異人種間の結婚を禁ずる法律は、すべて憲法違反との判決を得る。公民権運動の時代を生きたまっすぐな純愛伝記ドラマ。



© 2016 Big Beach, LLC. All Rights Reserved
(ラヴィング)

* 「Caravan to the future」

デコート・豊崎・アリサ監督・撮影
2016/フランス/60分/2003年撮影ドキュメンタリー

ニジェール北部で岩塩を仕入れ、4カ月かけてテネレ砂漠を越え、ビルマ・オアシスを経由し、さらにナイジェリアのカノまで行く、ラクダのキャラバンを映像に収めた貴重な民族学的風物詩だ。5月末に、バンドグループの〈タミクレスト〉Tamikrest 来日ツアーでも上映される。自主上映も可能。



(Caravan to the future)

* 「リベリアの白い血」 Out of my Hand

福永壮志監督 村上涼撮影
2015/アメリカ・リベリア合作/88分
8月5日よりアップリンク渋谷にて

リベリアのゴム園で働く主人公が、より良い生活を求め単身ニューヨークに渡りタクシー運転手になるが、旧知の元リベリア兵士に出会い、忌々しい過去が蘇ってくる。

【プロフィール】 高倍宣義 (たかべ のぶよし) 兵庫県出身、早稲田大学文学部卒。外務省入省後、南欧の他、モロッコ、チュニジア、コートジボアール、アルジェリアに勤務。邦人援護官、中央アフリカ大使およびコンゴ民主共和国で大使を歴任。

会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿
(2016.11.1-2017.4.30・順不同・敬称略)

進藤 重光	中山 善四郎
高橋 章	村井厚子
末永 秀雄・美津代	島田 恒
加藤 順子	安達 裕美
東矢 高明	武井 弥生
カトリック松原教会	国分 一也
谷口 義武	藤枝 伊都子
築木 純夫	山田 篤
西嶋 久恵	古城 かほる
春日井 明	小林 貞
酒井 匠	碓井 徹
野坂 俊弥	石間 裕
安藤 和彦	神山 和美
武井 秀彦	持田 二郎・裕子
上村 武夫	グエン・テ・ホン
窪田 愛子	禹 満
佐賀 邦夫	中本 裕之
池田 ゆう子	市川 幸一
匿名の皆様	

ご支援・ご協力ありがとうございました。

★左記期間内に会費納入やご寄付をされている方で、名簿に載っていない方は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

★HINT は皆さまの会費で運営されています。年会費 5,000 円で、ベトナムでは約 500 人分の給食を提供できます。コンゴで中高生約 2 人分の 1 年間の学費です。

★封筒ラベルの一番下にある日付が、貴方の最終振込み日です。

★郵便局の振込金受領書は、正式な領収書ですので、大切に保管してください。

★振替用紙は事務局にコピーが届きますが、判読しづらい場合があります。楷書で分かりやすくご記入いただきますと大変助かります。

★おかげさまでコンゴ事業で卒業した奨学生の約半数が職を得ています。この成果は厳しい就職難の現地では稀有なことであり、皆さまのご支援は深い感謝をもって受け止められ、今なお彼らの夢と希望をかなえ続けています。

HINT 事務局からのお願い

会費振込のお願い

世界の中でも、特に貧しく生活が困難な現地の子どもたちの教育と健康を守るためには皆さまの会費やご寄付が命綱です。

お振り込みは同封の振込用紙を使用していただくか、下記口座へお振込みくださいますようお願いいたします(賛助会員: 1 口 5,000 円から・学生会員: 1 口 2,000 円から。ご寄付の場合はご随意にお願いいたします)。

■郵便振替: 00120-1-596327

口座名義: 特定非営利活動法人 HINT

■ゆうちょ銀行:

記号 10010 番号 26990711

(他銀行から振り込む場合 店名: 008

種目: 普通 番号: 26990711)

口座名義: 特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

■三井住友銀行: 新宿支店

普通預金: 3390001

口座名義: 特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

● 2017 年度役員・ボランティアを募集!

2017 年度の HINT 役員とボランティアを募集しています。非営利活動を支えるのは、皆さまからの大切な会費収入と同時に、日々の小さな事務作業の積み重ねです。役員は総会で選任され、定期的な理事会に出席し、HINT の実務的な業務をしていただきます。

印刷作業や荷物運び、翻訳などのテンポラリーなボランティアの仕事もあります。登録ボランティアとして、メールアドレスをご登録いただき、ご都合のつく時に、実務的な作業に随時ご協力いただければ幸いです。皆さまのお申し出をお待ちしています。

ご連絡・お問い合わせ先:

HINT 事務局 E-mail: hint_info@epopee.co.jp

HINT 事務局からのお知らせ

《総会のお知らせ》

日時：2017年6月24日(土) 18:30~19:30
場所：新宿区立大久保地域センター3階会議室C
東京都新宿区大久保2-12-7 TEL: 3209-3961
JR新大久保駅下車 徒歩8分

2016年度総会及び理事会を開催いたします。

議題：2016年度活動報告、2016年度決算、2017年度役員改選、2017年度活動計画、2017年度予算計画等（終了後、懇親会）。

どなたでもご参加いただけます。HINTの活動について、ご関心のある方は是非おいでください。事前のご連絡は不要です。

《活動報告》

● 「キリスト新聞」(2017年1月21日付)に紹介されました。

昨年のチャリティーパーティーが紹介されましたので記事の一部をご紹介します

「2016年10月に新ビルを竣工した(11月12日号既報)真生会館(東京都新宿区、理事長=森一弘名誉司教)は12月23日に「エポペ・クリスマス降誕ミサ&チャリティーパーティー」を開催し、約50人が参加した(エポペ・チャリティクリスマス実行委員会主催)。

新宿歌舞伎町にバー・エポペを開きサラリーマン客を相手に宣教活動をしたことで有名な故ジョルジュ・ネラン神父が1970年に同会館の理事長となった縁で開催された。バー・エポペは11年に惜しまれながら閉店したが、開業時からスタッフや常連客が中心となり毎年クリスマスにミサとチャリティーパーティーを行っており、今年は37回目。」

(『「信徒こそが教会を支える時、真生会館でネラン神父を偲びミサとパーティー」より)

《今後の活動予定》

● 「カトリック赤羽教会チャリティーコンサート」に参加します

日時：2017年8月26日(土) 開演 13:30

場所：カトリック赤羽教会 信徒会館 2階

入場料：前売り 1,500円、当日 2,000円

■JR「赤羽駅」(京浜東北線・埼京線・湘南新宿ライン・宇都宮線〈東北線〉・高崎線) 東口徒歩3分 ■東京メトロ「赤羽岩淵駅」(南北線・埼玉高速鉄道線) 徒歩6分

出演者：武内良太郎・矢ノ倉あや(ヴァイオリンとピアノ)、なまけぐま(デュエット)、Deeper(ゴスペル・シンガーズ)、Y.B.B(クリスチャンバンド)、Evergreen ChoirK(エバークリーン クワイヤー)、IKI&CHOU(ゴスペル)

アジア・アフリカの子供たちのためのチャリティーコンサート。ゴスペル、ジャズと、どなたでもお気軽に楽しめる催しです。HINTはブース展示で支援先の雑貨を紹介し、PR活動をしています。当日のボランティアを募っています！
ご連絡・お問い合わせ先：(HINT事務局 E-mail: hint_info@epopee.co.jp)

＜会場地図＞



東京都認定 NPO 法人 ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク (HINT) 事務局

〒164-0002 東京都中野区上高田 3-24-7 平兵衛内

電話&FAX: 03-6279-1080

e-mail: hint_info@epopee.co.jp

ホームページ: http://www.epopee.co.jp/hint